

↑このレッスンのパワーポイントです。クリックしてお使いください。

A. お祈りの暗唱と暗記

お祈りをしてクラスを始め、レッスン21で学習し始めたお祈りの暗記を続けるよう助けます。

B. 歌(前に習った歌の復習を含む)

「忍耐」

(『一つの海の波』CD、8 番)

足がつかれてきた でも道は長い
もう歩くのはやめようか 大陽かんかん照り
あきらめるのは早い 泣いたって無駄
一歩ずつ進めば あっという間さ

*(繰り返しの部分)

忍耐するのが一番 愚痴いっても だめ

忍耐は報われる

弟は わからない 何度 説明しても
もう一度やってみようか でもうまくいかな
あきらめるのは早い 怒っても無駄
丁寧に説明したら わかってくれるさ

(半音上げる)

もっとうまくなりたい でもうまくいかない 努力したって無駄
どこに行きつくの
あきらめるのは早い 手を抜くなんて だめ
努力を続けていれば きっと成功する

*(繰り返しの部分) X 2 回

幸せがくる

C. 引用文の暗記

今日のレッスンで、子どもたちは忍耐についての引用文を暗記します。これは次のように説明することができます。

忍耐は、私たちのもつ最も重要な資質の一つです。忍耐がなければ、人生でほとんど何も達成できません。勉強で、仕事で、家族の中で、他の人との友情で、精神的成長のための努力で、忍耐が必要です。人生はすぐにできることばかりではありません。たくさんのは、毎日、少しずつしか進みません。忍耐するということは、時間のかかることを急いでしようとしなないということです。私たちはみんな学びながら成長しているのですから、他の人に対しても、自分自身に対しても忍耐が必要です。忍耐を身につけるための努力において、次の引用文の暗記が助けになるでしょう。

まこと にんたいづよ た ほうしゅう ま たも
誠に、神は忍耐強く耐えるものの報酬をいや増し給う。 126

<忍耐> (☆: 英語にはない)

1. まみちゃんは鉄棒の逆上がりができませんでしたでしたが、何度も練習して逆上がりができる ようになりました。まみちゃんは、忍耐強く練習したので、ついに逆上がりができるようになりました。
2. アンナちゃんはお腹がすいていましたが、おやつはもう食べたし、もうすぐ晩御飯だったので、宿題をしながら忍耐強く夕食を待ちました。

<耐える>

1. アリヤちゃんの家族は遠いところへ引っ越しました。最初の2、3ヶ月はいろいろ大変でしたが、近所の人たちが親切にも手伝ってくれたので、それらの困難に耐えることができました。今は、新しいお家でとても幸せです。
2. ヒュー君は病気でひどい痛みを苦しみました。少しも文句を言いませんでした。彼は忍耐強く痛みを耐えました。

<報酬>

1. アンダーソン先生は、クラスの生徒たちが準備した素晴らしい科学プロジェクトにとっても満足したので、報酬として生徒たちを近くの水族館へ連れて行きました。
2. アレナちゃんはギターを弾く方法を学ぶために、毎日練習しました。そして、弟に美しい歌を弾いてあげた時、弟が喜んでくれたことは彼女の努力に対する十分な報酬でした。

<いや増す> (=もっと多くなる) (☆)

1. お正月前に花屋さんは忙しくなったので、ナオちゃんはずっと長い時間お手伝いをする事になりましたが、お母さんたちが喜んでくれたので、彼女の幸せはいや増しました。
2. 農家は今年、いつもより稲を多く植えたので、秋にはお米の収穫がいや増しました。

D. お話

リ・シン君は桃が大好きでした。毎日桃を一つ学校に持って行って、昼休みにそれを食べました。一口ごとにそれを楽しんだのですが、いつも種の入っている核を捨てていました。

ある日、リ・シン君のクラスは種について学びました。そして、リ・シン君にある考えが浮かびました。桃の種を植えて、木を育てようと思ったのです。昼休みに桃の核を捨てないで紙に包み、学校が終わって走って家に帰りました。リ・シン君はお父さんに、桃の木を育てる場所を捜すのを手伝って欲しいと頼みました。お父さんは、種を取り出すにはまず核を乾さなければならないと言いました。でも、リ・シン君はすぐに核を植えたいと思いました。お父さんは、「リ・シン、核が乾くまでがまんできないなら、どうやって種が芽を出すまで忍耐できるのかね?」と言いました。これを聞いたリ・シン君は核を乾かすことにしました。

2、3日して、リ・シン君はついに核を割って種を取り出すことができました。お母さんが、庭に桃の木が大きく高く成長できるような場所を見つけてくれました。リ・シン君は小さな穴を掘って種を入れて、湿った土をかぶせました。彼は興奮して目を輝かせました。ついに彼の木が育ち始めたのです。

リ・シン君は、種から芽が出るしるしを見ようと、毎日、種を植えたところにやって来ました。でも、何週間も芽が出る様子がありませんでした。リ・シン君はがっかりしてきました。お母さんは彼ががっかりしていることに気づき、どうしたのかとたずねました。リ・シン君は「種が育っていないんだ。ほんとに木が育つか心配なんだ」と言いました。お母さんは、「あのね、この種は成長するためにすることがいっぱいあるのよ。ちょうどあなたのようにね。あなたが生まれたときは、とても小さくて、ただ食べて寝てばかりだったのよ。それが今はどうでしょう! 少年になって、歩いたり、しゃべったり、自分で考えたりするでしょう! この木だって育つのに何年もかかるかもしれないのよ。もしあなたがしっかり世話をすれば、いつかこの木の陰に座って、その実を食べることができるときが来るんじゃないかしら」。リ・シン君は、お母さんが言ったことを考えて、再び希望が湧いてきました。彼は、種は芽を出すまでにたくさん変化すると、学校で学んだことを思い出しました。

そして、ある春の日、リ・シン君はいつものように種を植えた場所にやって来て、地面から小さな緑の芽が出ているのを見ました。彼はとても興奮しました! 僕の木が育っている! 彼はお隣のお百姓さんのところに走って行って、そのすごいニュースを知らせました。彼女は、木が若くて傷つきやすいとき、どのように世話したら良いか、リ・シン君に教えてくれました。リ・シン君は、木を育てるために、彼女の助言の一言一言に耳を傾けました。「おばさんの助言へのお礼の桃が、もうすぐたくさんできます」と、リ・シン君が言うと、おばさんはただ微笑んで言いました。「リ・シン君、憶えている? 核が乾くまであなたはじっと我慢しなきゃならなかったってことを」。リ・シン君はうなずきました。「それに、その種が芽を出すまではもっと我慢したでしょう?」リ・シン君はそのことも思い出しました。「苗木が木になるまでもっと長くかかるだろうし、それが実を結ぶまでも同じね。そして、あなたが楽しみにしている桃が実るまでには何年もかかるでしょう」。

リ・シン君は芽から苗木、苗木から木に育つまで、桃を優しく世話しました。木はリ・シン君と同じように少しずつ、高く大きく成長していきました。そしてある日、リ・シン君が学校から帰ってくると、ちょっと前には花だった木に桃がなっていました。種から芽が出始めたときと同じように、もう一度喜びでいっぱいになりました。でも、桃の実が熟して食べられるようになるまでには、まだまだ忍耐しなければならないと知っていました。

E. ゲーム:「最初の子は誰？」

一人の子が目隠しをして、みんなに背を向けます。次に、先生は「最初になる子」を黙って指を差して指定します。目隠しの子がみんなの方を向く前に、「最初になる子」のすることを真似る練習をするよう子ども達を助けます。たとえば、「最初になる子」が手を叩けば、みんながそれを真似します。そうして、目隠しの子は目隠しを外し、注意深く見回して、誰が「最初になる子」なのか探し出します。そのとき、真似している子たちは誰が「最初になる子」なのか気付かれないよう、その子をじっと見たり、何度も見たりしないよう努力します。

F. ぬり絵 23

G. 終わりの祈り



まこと
誠に、神はにんたいづよ忍耐強くた耐えるもののほうしゅう報酬をまいや増したも給う。